

多様な性が尊重され、児童生徒が安心して過ごせるための視点

(1) 多様な性に肯定的な環境をつくりましょう

- 違いを認め合える雰囲気をつくりましょう。
- どのクラスにも性的マイノリティの子どもがいるという前提で授業をしましょう。
- 日頃からいかなる理由でもいじめや差別を許さない適切な児童・生徒指導及び人権教育を推進していきましょう。
- 男女での区別に不必要なものがないか見直してみましょう。
- 多様な性について正しい情報を伝えましょう。
- 「人権としての性」について系統的に学ぶ機会をつくりましょう。

(2) 相談を受けたときの対応のポイント

- 困りごとや「どうしてほしいか」は人によって違います。よかれと思うことを押しつけるのではなく、その子がどう考え、何を望んでいるのかじっくり本人と話し合い、共に歩む姿勢を示しましょう。
- 打ち明けられ、具体的な支援が必要な場合は、自分は誰に話してよいか、また、どこまで話してよいかを本人に確認しましょう。
- 性に対する自覚は変わったり、揺らいだりすることもあります。早急に決めつけたり、無理に解決しようとしたりするのではなく、本人の気持ちに寄り添いながら丁寧な対応を心がけましょう。

(3) 学校における支援体制について

- 最初に相談を受けた者だけで抱え込まず、状況に応じて組織的に取り組みましょう。学校内外に「サポートチーム」を編成し、ケース会議等を適時開催しながら対応を進めましょう。また、多層的な差別（※）の被害等についても確認しましょう。
- 教職員間での情報の共有については、本人やその保護者に対して、情報を共有する意図を十分に説明・相談し、理解を得ながら、対応を進めましょう。
- 保護者が性に関する悩みや不安等を受容していない場合は、学校における子どもの悩みや不安を軽減し、問題行動の未然防止等を進めることを目的として、保護者と十分に話し合い、可能な支援を行っていきましょう。
- 専門的なアドバイスが必要なときは、プライバシーに配慮しながら専門相談窓口や専門機関等に相談しましょう。

※多層的な差別

女性差別、人種差別、性的マイノリティ差別など、様々な差別が複雑に絡み合っている差別のこと。